

令和 6 年 6 月 17 日現在

機関番号：32686

研究種目：若手研究

研究期間：2019～2023

課題番号：19K14108

研究課題名（和文）イギリスと日本における家政学のトランスナショナルな伝播に関する歴史的研究

研究課題名（英文）Historical study on the transnational diffusion of domestic economy in Britain and Japan

研究代表者

中込 さやか（NAKAGOMI, Sayaka）

立教大学・グローバル・リベラルアーツ・プログラム運営センター・特任准教授

研究者番号：00778201

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,100,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、大江（宮川）スミと家政学を切り口に、近代の日英間の女子留学生/女性教育者のトランスナショナルな移動そのものに注目すると同時に、それを可能とした各国の教育的・社会的状況を分析することで、19世紀後半から20世紀初頭の女子中等・高等教育の世界的な拡大の構造と特質を明らかにすることを狙う。第一に、大江のトランスナショナルなイギリス官費留学の経験と帰国後の成果を日英の一次史料から分析する。第二に、留学時のイギリスの家政学教育を取り巻く教育的・社会的な状況を明らかにする。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は近代のイギリスと日本の社会と教育におけるジェンダー観を浮き彫りにすると同時に、両社会を越境する女性のトランスナショナルな活動の可能性を明らかにする。本研究の学術的意義はイギリスと日本の女子中等・高等教育の歴史をトランスナショナルな視点から考察し、特に日本における研究成果を国際的に発信する点である。本研究の社会的意義は、社会のグローバル化や家族関係の多様化に教育がいかに対応するかという今日の課題を、ジェンダーとトランスナショナルの視点から歴史的に考察する点である。

研究成果の概要（英文）：This research aims to clarify the structure and characteristics of the global expansion of women's secondary and higher education in the late 19th to the early 20th centuries by focusing on the transnational move of women study abroad students/women educators between Japan and Britain in the modern period by focusing on Oe (nee Miyakawa) Sumi and Domestic Science. Firstly, Oe's transnational experience as one of the government-funded study abroad students and her achievements after returning to Japan will be analysed by using primary historical sources in Japan and Britain. Secondly, this research aims to clarify the educational and social conditions surrounding Domestic Science education in the UK at the time of her study abroad.

研究分野：近現代イギリス女子教育史、近代日本女子教育史

キーワード：トランスナショナル 留学生 ジェンダー 大江スミ 家政学 家庭科 イギリス教育史 イギリス女子教育史

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

本研究は、研究代表者による女子中等・高等教育史研究の一部であり、社会のグローバル化や家族関係の多様化に教育がいかに対応するかという今日的課題を、ジェンダーとトランスナショナルの視点から歴史的に考察したものである。

1980年代以降の歴史学への導入以降、ジェンダーは政治、経済、社会、文化、軍事等の幅広い局面に応用可能な分析概念として英語圏のアカデミズムに浸透した。研究代表者は学部生時代から一貫してジェンダー概念を用いた教育史研究に関心を持ち、博論¹では1871～1914年のイングランドのミドルクラス向け女子教育における「家事科」の変遷に着目した実証的事例研究で、女性教育者の語りにあられる教育理念、学校カリキュラムの内実、学生の進路選択と社会層の分析、教師のキャリア形成等を幅広く分析した。以上の研究蓄積を踏まえ、本研究は女子留学生/女性教育者と家政学というジェンダー視角が有効となる切り口から、日英の教育社会史の研究成果を融合すると同時に、実証的な史料分析から日英における近代女子教育の発展を明らかにする。

トランスナショナルなアプローチは、国民国家が主導する国際的な交渉や交流でなく、ボランタリな個人や団体が国境や境界線を越える動きそのものや、国境や境界線を横断して存在する社会的空間、人々が形成するネットワークやコミュニティの多様性、そこで交換される思想や知に着目する。第二次世界大戦以前には国民国家の中核での女性の参画は少なかったが、教育や福祉、社会運動等の近代の国境を越えて横断する空間では、主体的に動く女性達も男性と同様に知識を構築し、国際組織を設立し、実践を重ねてきた²。本研究ではトランスナショナルなアプローチをとることで、近代の国民国家的組織への着目だけでは明らかにできない女性の様々な主体的な活動を描くことを狙った。

2. 研究の目的

本研究の目的は、近代のイギリスと日本の社会と教育におけるジェンダー観を浮き彫りにすると同時に、両社会を越境する女性のトランスナショナルな活動の可能性を明らかにする。本研究が目的とした学術的独自性と創造性は、以下の3点である。

第一は、イギリスと日本の女子中等・高等教育の歴史をトランスナショナルな視角から考察する点である。2010年代以降、国際的な教育史研究ではトランスナショナルな視角が一般化した。日本教育史からの発信は少ない。本研究は、19世紀末から20世紀初頭の女子中等・高等教育の世界的な発展の中に日本の家政学の発展を位置づける新しい試みとなった。

第二は、近代イギリスの社会と教育における家政学の理念や実態についての実証的な歴史研究となる点である。研究代表者は博論で近代イギリス女子中等教育を取り巻く教育的・社会的状況を実証的に検証した。本研究はそれを女子高等教育や技術教育へ発展させたものとなった。

第三は、国際的な教育史の研究動向に、イギリス女子教育史と日本女子教育史を架橋するトランスナショナルな成果として貢献できる点である。研究代表者は2018年度から本研究のテーマに関連した国際学会での研究報告や海外学術雑誌への投稿を行っていたが、本科研の研究期間に研究成果の国際的な発信を継続して行った。

3. 研究の方法

本研究では、近代のイギリスと日本の間の女子留学生/女性教育者のトランスナショナルな移動の経験を明らかにすると同時に、それを可能とした各国の教育的・社会的状況を分析することで、19世紀末から20世紀初頭の女子中等・高等教育の世界的な拡大の構造と特質を明らかにすることを狙った。

具体的には、近代のイギリスと日本における家政学のトランスナショナルな伝播の具体的事例として、大江スミ(1875-1948)に着目した。戦前の留学生に関する研究や史料は少なからず存在するが、記述の大半は男子留学生についてであり、津田梅子や安井てつ等の伝記的研究を

¹ Nakagomi, S. (2016). *English middle-class girls' high schools and 'Domestic Subjects' 1871-1914* [Unpublished PhD Thesis, UCL Institute of Education, University of London] UCL Discovery. <https://discovery.ucl.ac.uk/id/eprint/1482135>

² ジョイス・グッドマン著、香川せつ子・内山由理・中込さやか訳(2017)「イギリスにおける教育史研究の潮流：ジェンダー・トランスナショナリズム・エージェンシー」『西九州大学子ども学部紀要』8号、93-109。

除けば女子留学生に関する包括的な研究は存在しない。しかし、佐々木啓子は戦前期までに欧米諸国に留学した女性は文部省派遣だけで44人を数え、他に私費留学生もいると指摘する。留学生数こそアメリカ留学が大きかったが、官費留学はイギリス、ドイツ等の欧州の大学が男女共に主流であった。明治政府は西洋的な様式を移入するための手段として、皇族・華族・元藩主が夫人や子女を伴って留学することを奨励し、海外渡航が流行になった。文部省が留学規定を設けた後、男子官費留学生は帝国大学などの国立の高等教育機関、女子官費留学生は女子高等師範学校の成績優秀者に限定され、留学先での専攻も明確化された。安井てつは女子高等師範学校の第一回卒業生であり、1897年にイギリスに官費留学し、ケンブリッジ大学およびオックスフォード大学で教育学や心理学を学んだ。帰国後は女子高等師範学校教授となり、後に東京女子大学の設立にも関与し二代目学長となった。大江は女子高等師範学校を卒業後、1902年から家政学研究のためイギリスに留学し、帰国後は東京女子高等師範学校教授となり、1925年に東京家政学院を設立した³。

大江スミと家政学を切り口にするにあたり、以下の2点について、イギリスおよび日本における史料調査、国内外の学会における研究成果の報告、そして英語および日本語での論文の執筆を行った。それにより、日英の社会と教育におけるジェンダー観を浮き彫りにすると同時に、両社会を越境する女性のトランスナショナルな活動の可能性を明らかにした。

- (1) 大江スミのトランスナショナルなイギリス官費留学の経験を明らかにし、その留学経験が帰国後の日本での家政学教育にいかんにかに反映されたかを、日英の一次史料から分析する。
- (2) 大江スミの留学時のイギリスの家政学を取り巻く教育的・社会的な状況を明らかにする。

4. 研究成果

(1) 大江スミのトランスナショナルなイギリス官費留学の経験を明らかにし、その留学経験が帰国後の日本での家政学教育にいかんにかに反映されたかを、日英の一次史料から分析する。

国内外における研究成果の発表

本科研の研究期間において、継続して国際論文（英語）、国内外の国際学会（英語報告）と国内学会（日本語報告）で研究成果を発表した。

研究成果の国際的なインパクトは、2010年代以降に国際的な教育史研究ではトランスナショナルとジェンダーを併せた研究視角が一般化した。日本教育史からの発信は依然として少ない中で、国際学会での研究報告と国際論文（英語）の執筆を通じて貢献できた点である。第一に、19世紀末から20世紀初頭の女子中等・高等教育の世界的な発展の中に、日本の家政学の発展を位置づける新しい試みとして意義があった。第二に、国際論文や国内外の国際学会で報告を重ねることで、本研究の成果を国際的な教育史の研究動向の中に、イギリス女子教育史と日本女子教育史を架橋するトランスナショナルな成果として組み込むことが出来た。

Sasaki, K., Uchiyama, Y. & Nakagomi, S. (2020). Study abroad and the transnational experience of Japanese women from 1860s-1920s: Four stages of female study abroad, Sumi Miyakawa and Tano Jōdai. *Espacio, Tiempo y Educación*, 7(2) 5-28 では、戦前期（1860～1920年代）の日本人女性のトランスナショナルな留学経験について、まずは女子留学を支援した各教育機関の学術資料から、この時期の4つの段階における女子留学の傾向、時期、主体（官費・私費）、目的、留学対象を分析した。その後、大江スミと上代タノという20世紀初頭の二人の女性教育者の留学経験をたどることによって、官費留学と私費留学という女性の留学の形態を対比した。大江スミによる官費留学では、研究される学問分野と学生の体験は政府によって管理され、国家的な女子教育システムの構築に焦点が当てられた。しかし、上代タノによる私費留学には、女子学生に様々な学問分野を学ばせ、女性の社会参加を促進するための新しい国際的潮流を導入するという、より広い目的があった。海外留学を経験した女子学生の多くは、国境を越えた体験の結果、日本における女性教育や社会活動の先駆者となった。研究代表者は共著論文の中で、大江スミの事例の執筆と、分析と結論の節の推敲を担当した。

2022年夏の第43回国際教育史学会（ISCHE 42、オンライン開催）では、パネル報告「Travelling Objects: The circulation and reproduction of educational concepts between the East and the West, focusing on the transnational experiences of Japanese Women

³ Sasaki, K., Uchiyama, Y. & Nakagomi, S. (2020). Study abroad and the transnational experience of Japanese women from 1860s-1920s: Four stages of female study abroad, Sumi Miyakawa and Tano Jōdai. *Espacio, Tiempo y Educación*, 7(2) 5-28.

Educators in the first half of the Twentieth Century」の中で、研究代表者は報告「Sumi Ōe's transnational experience in UK and Europe: Seeing educational writings as travelling objects 1902-1905」を担当した。本報告では、考古学や人類学、民俗学、美術館学によって主導されてきた「モノ」を扱う物質文化研究が近年の教育史研究に導入されつつあることを受けて、大江スミがイギリス留学中に日本の文部省に書き送った「宮川スミ外国留学生申報書並に關係書類 明治三六年一月～三九年八月」(以下、「申報書」)を「travelling objects」と見なし、そこに記載された内容の吟味だけでなく、「モノ」それ自体としての伝播や重要性についても分析を行った。C.メイヤー⁴が提唱する「文化の転移(cultural transfer)」の過程では、大江のようにトランスナショナルに活動した女性が「媒介者」として貢献した。大江の国家的エージェント(文部省の女子官費留学生)と非国家的エージェント(キリスト教徒知識人)としてのトランスナショナルな留学経験は、「申報書」を通じて日本の文部省に定期的に報告されてきたが、これまでの日本女子教育史では「申報書」という「モノ」それ自体は着目されてこなかった。第一に、大江の留学体験を検証するための主要な分析対象は、大江の著書『三ぼう主義:女房・説法・鉄砲』(1911)⁵や、東京家政学院から出版された伝記『大江スミ先生』(1978)や学校史学等⁶であった。第二に、先行研究が大江と他の女子留学生の教育経験や教育思想を比較する際には、留学中の物理的・物質的な条件についての言及はされなかった。第三に、大江のトランスナショナルな留学体験は、同時代の男子官費留学生の留学体験とは別物として扱われてきたが、男子官費留学生の研究成果により大江の留学経験を補完することが可能である。本報告では、「travelling object」として「申報書」を検討するにあたり、以下の4点を検証した。1)イギリスとヨーロッパへの留学前の大江の経歴と学歴を概説し、2)大江と同時期の官費留学制度に言及し、3)「申報書」の内容を検証し、4)大江の留学の物理的・物質的側面を明らかにした。

日本における史料調査と史料分析

2019年度に、大江スミの1920～30年代の活動の実態を明らかにするため、日本YWCA、東京YWCA、市川房枝記念会女性と政治センターの婦選アーカイブスでの予備的な資料調査を行った。本科研の研究期間が新型コロナウイルスによるパンデミックの期間と大幅に重なったため、2020年度以降は現地における史料調査の代わりに、調査済の史料の分析と学校史などの刊行史料の分析を主に行った。

今後の課題

本研究は近代のイギリスと日本の間の女子留学生/女性教育者のトランスナショナルな移動の経験を明らかにする上で、大江スミのトランスナショナルな留学経験を主に分析した。今後は、留学中の経験を留学前後の教育経験(東京のミッション系女学校、沖縄の師範学校・女子高等学校)やキャリア経験(東京女子高等師範学校、東京家政学院)と接続し、より広いトランスナショナルな経験から、大江スミが家政学教育の理論と実践を通じていかに近代国民国家の基盤となる近代的な家庭や家族、主婦のあり方を構築しようとしたかを明らかにしたい。

(2) 大江スミの留学時のイギリスの家政学を取り巻く教育的・社会的な状況を明らかにする。

国内外における研究成果の発表

研究成果の国内的なインパクトは、イギリスの複数の学校史料を主とする豊富な一次史料を用いた実証的研究により、従来のイギリス女子教育史が等閑視してきた側面を明らかにできた点である。従来の研究史は男女平等を志向した女性教育者や、女子カレッジへの進学者を多く輩出する女子学校で男女平等の学業重視路線がいかに導入され、発展したかを主要な関心事としていた。本研究は、それら学業重視路線の女子ハイ・スクールにおいても、1870年代以降に試験的に、また継続的に家政学教育が行われてきていた点を明らかにした。

博士論文から続く研究成果の一部を『歴史学研究』1018号掲載の「特集 ジェンダーの多様性の歴史」の中で単著依頼論文「ミドルクラスの「女性らしさ」と女子教育: ノース・

⁴ Mayer, C. (2019). The transnational and transcultural: Approaches to studying the circulation and transfer of educational knowledge. In Fuchs, E. & Vera, E. R. (Eds.). *The transnational in the history of education*, Palgrave Macmillan.

⁵ 大江スミ(1911)『三ぼう主義:女房・説法・鉄砲』實文館。

⁶ 大濱徹也(1978)『大江スミ先生』東京家政学院。大濱徹也(1991)『ひとひらの雪として:大江スミ先生の生涯』東京家政学院。手塚六郎編(1975)『東京家政学院五十年史』東京家政学院。

ロンドン・コリージェト・スクールと家庭科関連科目群 1871～1894年」(2022)として発表した。本論文では、ミドルクラスの社会的ジェンダー規範である「女性らしさ」が女子教育カリキュラムでの教育実践を通じていかに再生産されたか、また、教育実践の変化を通じて求められる「女性らしさ」がどのように変化したかを問う。具体的には、1871～94年のNLCSにおける家庭科関連科目群の実践を実証的に研究することで、アカデミックな教養教育の発展の中で同科目が果たした役割を、やその教育目的や、生徒層からを検証する。その中で、「二様の責務」、「二重の目的」、「科学的な主婦」の概念を構成する知識や技能の実態を明らかにする。以降、まずは19世紀後半から20世紀初頭のイングランドにおけるミドルクラス女子教育の発展と、ノース・ロンドン・コリージェト・スクール(NLCS)の教育の特徴を概観する。そして、NLCSでの具体的な家庭科関連科目群の実践と目的を検証し、そこに見られるミドルクラスの「女性らしさ」の再生産や読み替えを分析する。分析にはNLCS学校史料を主に用いた。

『女性とジェンダーの歴史』11号に「堀内報告に寄せて 後続のイングランド女子教育史研究者より」(pp.65-66)が掲載された。第38回イギリス女性史研究会で行ったコメント報告(2022年12月10日実施)に加筆修正を加え、研究代表者のこれまでのジェンダー平等やフェミニズムへの関心が、イギリスと日本の近現代女子教育史の中で女子留学生/女性教育者や家政学教育という研究テーマや研究視角を選択するにあたりいかに対応していたかを述べた。

イギリスにおける史料調査と史料分析

本科研の研究期間が新型コロナウイルスによるパンデミックの期間と大幅に重なったため、現地における史料調査は当初の予定より大幅に少ない回数での実施となった。2023年度の2月後半から3月上旬まで、ロンドンの複数の文書館にて19世紀後半から20世紀初頭のイギリス女子中等・高等教育における家庭科と家政学に関する史料の調査および収集を行った。具体的には、London Metropolitan ArchivesではLondon Technical Education Boardの議事録および関連史料を調査し、ロンドンの地方教育行政が主導した科学技術教育の一部としての家政学教育の実施状況を確認した。UCL IOE ArchivesではGPDST史料を調査し、19世紀後半から20世紀初頭のイングランド全国に設立された通学制女子ハイ・スクールの各校における家政学教育の実施の程度を確認した。British LibraryではNorth London Collegiate Schoolの学校雑誌を調査し、同校における家政学教育についての記述を確認した。

今後の課題

大江スミのトランスナショナルな留学経験を可能としたイギリスの教育的・社会的状況を分析するにあたり、上記のロンドンでの史料調査の成果を生かし、ロンドンの地方教育行政が管轄した科学技術教育の推進策の一部としての、女子を対象として実施された家政学教育の専門教育について分析したい。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 中込さやか	4. 巻 1018
2. 論文標題 ミドルクラスの「女性らしさ」と女子教育：ノース・ロンドン・コリージェト・スクールと家庭科関連科目群 1871～1894年	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 歴史学研究	6. 最初と最後の頁 1～14
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 ジョイス・グッドマン著、香川せつ子・中込さやか・内山由理共訳	4. 巻 35
2. 論文標題 「プリンマー・カレッジの日本式教室にみる地方的、国家的、トランスナショナルな流れ：空間・時間・物質」と女性教育のトランスナショナルな歴史」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『津田塾大学言語文化研究所報』	6. 最初と最後の頁 84～104
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Sasaki Keiko, Uchiyama Yuri & Nakagomi Sayaka	4. 巻 7(2)
2. 論文標題 Study abroad and the transnational experience of Japanese women from 1860s-1920s: Four stages of female study abroad, Sumi Miyakawa and Tano Jodai.	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Espacio, Tiempo y Educacion	6. 最初と最後の頁 5-28
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.14516/ete.322	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計6件（うち招待講演 1件/うち国際学会 4件）

1. 発表者名 Sayaka Nakagomi
2. 発表標題 Sumi Oe's transnational experience in UK and Europe: Seeing educational writings as travelling objects 1902-1906 (A6 ONLINE 02.1: Educational Writings as Travelling Objects between the West and the East).
3. 学会等名 ISCHE 43 (Online)(International Standing Conference for the History of Education、国際教育史学会43) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 中込さやか
2. 発表標題 堀内報告に寄せて
3. 学会等名 第38回イギリス女性史研究会（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Sayaka Nakagomi
2. 発表標題 Sumi Oe's Transnational Experience and the 'Social' Role of Modern Japanese Women c.1902-1911.(01-SES 24: SWG 3_2: Women Teachers Transferring Knowledge and Practice Across Borders)
3. 学会等名 ISCHE 42 (Online)(International Standing Conference for the History of Education、国際教育史学会42) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 中込さやか
2. 発表標題 イギリスと日本における教育のトランスナショナルな伝播 大江スミ（1875-1948）と家事科／家政学の事例から
3. 学会等名 第70回日本西洋史学会大会（大阪大学、オンライン開催）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Sayaka Nakagomi
2. 発表標題 The British Impact on Women's Education in Japan: A case study of Sumi Oe and Tokyo Kasei Gakuin. In Symposium 'Gender and Transnational Perspectives in the History of Education'.
3. 学会等名 World Education Research Association Focal Meeting 2019. Gakushuin University, 8 August 2019. (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Sayaka Nakagomi
2. 発表標題 Study abroad and its impact on the life course of a Japanese woman educator in the early 20th century: Sumi & Oe and her study abroad in England
3. 学会等名 History of Education Annual Conference 2019. UCL Institute of Education, 8 November 2019. (国際学会)
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 山口みどり, 弓削尚子, 後藤絵美, 長志珠絵, 石川照子 (編著) 中込さやか (著)	4. 発行年 2023年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 320
3. 書名 論点・ジェンダー史学 (担当:分担執筆, 範囲:中等教育, pp. 64-65)	

1. 著者名 S. Suzuki, G. McCulloch, M. Gu, P. V. Rao & J. Hong. (Eds.). Sayaka Nakagomi	4. 発行年 2021年
2. 出版社 Routledge	5. 総ページ数 422
3. 書名 The Routledge encyclopedia of modern Asian educators 1850-2000.	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------